

2011年度後期

知の市場(シラバス)

新規

科目No.		科目名	原爆と平和学				副題	放射線健康影響の克服から国際ヒパクシャ医療と平和構築活動			
連携機関名	長崎大学	レベル	中級	教室定員	30	配信定員	0	講義日時	木曜日 18:30~20:30	講義場所	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
科目概要(300字)	原爆被災という広島・長崎の負の遺産から現代社会の科学の進歩の光と影を洞察し、放射線健康障害の実態を理解する。その上で原爆被爆者のみならず世界のヒパクシャについて最新の知見を網羅し、核の時代における人類の共存共栄について新たなパラダイムや進むべき道を開拓する。守りの科学として緊急被ばく医療や健康リスク管理を学び、核時代における平和論を被爆国日本の立ち位置から紹介し、国際貢献への道を模索する。(長崎大学東京事務所での遠隔地受講について検討中)										

科目構成		講義名	講義概要(150字)	講義日	教室	講師名	所属
原爆医療概論	1	歴史と放射線障害	放射線・放射能の発見から原爆開発、さらに東西冷戦構造の時代における狂気の核実験競争について紹介し、科学の光と影について原爆医療概論を講義する。放射線被ばくの人体影響と実態を包括的に講義する。	9月22日	医学部原研4階研修室	山下俊一	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科原研放射線災害医療学
	2	放射線影響:病理	放射線人体影響は、遺伝子、細胞、組織、臓器レベルで見られ、特に原爆被爆者の病理標本を収集解析することでそれらの影響を解説することができる。急性放射線障害と晩発性放射線障害である癌病理について講義する。	9月29日	同上	中島正洋	同上 腫瘍診断病理学
	3	放射線影響:血液	急性放射線障害と晩発性放射線障害を血液・骨髄を中心に紹介し、放射線が及ぼす血液疾患について講義する。	10月6日	同上	塚崎邦弘	同上 血液内科学
	4	データベースの活用	原爆被爆者の検診データを長年に渡り収集解析することで被爆者の健康管理に貢献している。そのノウハウの紹介しつつ、データベース解析から見えてくる原爆被爆者の実態と被爆者の特徴について講義する。	10月13日	同上	三根真理子	同上資料収集保存部
放射能と放射線	5	防御と安全	放射線と放射能の違いから被ばくの安全防護について講義し、現代社会における放射線管理の実情を紹介する。放射線の利用促進とそれに関わる安全防護の国内情勢を講義する。	10月20日	同上	松田尚樹	長崎大学先端生命科学支援センター
緊急被ばく医療	6	国内対応	国内54基の原発が稼働中であるが、どのように原発の安全が図られ、事故時にどのように対応が準備されているのか原子力安全行政から地域の被ばく医療の実態などについて紹介する。	10月27日	同上	大津留 晶	長崎大学病院国際ヒパクシャ医療センター
	7	国際対応	国際原子力機関や世界保健機関を中心に放射線安全防護の対応が広範囲に展開されている。それぞれの特徴から現代社会の原子力から医療被ばくに至るまでの国際対応について紹介する。	11月10日	同上	大津留 晶	同上
世界のヒパクシャ医療	8	チェルノブイリ原発事故	1986年4月26日未明に発生した人類史上最悪のチェルノブイリ原発事故から25周年を迎えて現地の医療支援活動を通じて教訓を引き出し、世界のヒパクシャ医療について長崎や広島からの展望を紹介する。	11月17日	同上	高村 昇	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科国際放射線福祉医療学
	9	セミパラチンスク核実験	1949年8月29日ソ連第一号の原爆実験がカザフスタン共和国セミパラチンスク核実験場で行われた。その後500回近い核実験による被ばく者が現地に親子3代生存中である。その健康影響と医療支援活動について講義する。	11月24日	同上	高村 昇	同上
核時代の平和論	10	長崎の遺産と永井隆論	原爆被爆直後の救護活動を通じて長崎の鐘を復興と平和希求のシンボルとして活動された永井隆の人生を通じて、長崎の地に脈々と伝わる精神遺産と平和論について講義する。	12月1日	同上	山下 俊一	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科原研放射線災害医療学
	11	世界のヒパクシャ	チェルノブイリ、セミパラチンスク以外にも多くのヒパクシャが世界中にいる。その実態を紹介し、世界のヒパクシャに対する医療支援や補償問題を考え、核兵器廃絶の必要性と非核三原則から日本からの非核平和外交論を考える。	12月8日	同上	山下 俊一	同上
	12	平和構築活動:歴史と現実	世界の核保有国が歩んできた道から現在の南半球全体の非核兵器地帯の構築を学び、今後核兵器廃絶の可能性を講義する。原爆被災国日本からの非核平和外交と国際ヒパクシャ医療協力について紹介する。	12月15日	同上	山下 俊一	同上
エネルギーと健康	13	国際医療協力	核に汚染された大地で世界の被ばく者医療に関わることで現代の「エネルギーと健康問題」を考え、具体的に国際機関や放射線医療現場で働く為のノウハウを討論する。日本の立ち位置の認識から国際貢献の可能性を論ずる。	12月22日	同上	山下 俊一	同上
放射線生命科学	14	細胞レベルの放射線影響	放射線生物学の基礎知識を講義し、その上で放射線が遺伝子及び細胞レベルでどのような影響を与え、遺伝子不安定性から発がんへと誘発させるか生細胞研究成果を講義する。	1月5日	同上	鈴木啓司	同上
総合討論	15	総括と考査	核の時代における危機管理を総合討論し、歴史から国際社会の現況の正しい認識の下で被爆国日本の将来と国際貢献について考査する。	1月12日	同上	山下俊一	同上